clone

ゆうゆうぽんかん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ｃｌｏｎｅ

【Ｎコード】
Ｎ７８２６Ｒ

【作者名】
ゆうゆうぽんかん

【あらすじ】
ここは、閉ざされた世界。
少しの自然と、作物と家畜がいて、そして、４種類の人間がいる、閉ざされた街。
男、女。クローン人間の、男、女。
この街では、クローン人間（以下クローン）は、労働力として使わ

れ、蔑まれる運命にある。

しかし、この街にはなぜか街ができた時から、ある法律が存在した。

「クローンの子供は、人間とみなす。」

これは…そんな街で出逢った、少年と少女の物語。

閉ざされた世界で出逢った、人間と、クローンの物語……

閉ざされた街

ここは、閉ざされた世界。

少しの自然と、作物と家畜がいて、そして、４種類の人間がいる、閉ざされた街。

男、女。クローン人間の、男、女。

この街では、クローン人間（以下クローン）は、労働力として使われ、蔑まれる運命にある。

しかし、この街にはなぜか街ができた時から、ある法律が存在した。

「クローンの子供は、人間とみなす。」

これは…そんな街で出逢った、少年と少女の物語。

閉ざされた世界で出逢った、人間と、クローンの物語……

白いＵＦＯ（前書き）

サブタイトルは、適当なときと真面目なときがあります。今回のは適当な方なので、あまり気にしない方向でお願いします。

白いUFO

ん…？
なんだ…あれ…なにか……白い…飛んでる？
カツンッ

「痛っ！！」

クラス中から笑い声が響いている…？
頭に当たった白い未確認飛行物体を拾うと…
チョークだ。なんでこんなところに。

「こらあああああああああああああ！！！！寝るな、起きろ！！！！お前は来年社会に出るんだぞ！その自覚をきっちり持て！！！！まったく、高3にもなって何をやっとるんだ！！」

つまり、俺は授業中に寝てたわけか。だから先生がチョークを投げたのか。なるほどなるほ

「話を聴いているのかーーーっっっ！！！！」

なんで女なのにここまで迫力があるんだよ…先生。

退屈な授業が終わり、家路につく。

「おーい安藤、まてよー。」

後ろから声が聞こえる。

「まさか大親友のこの俺、田沼海斗サマを置いて帰るつもりか？そんなことはこの街の法律で認められていない！！さて、一緒に行こうぜーー」

「あぁ」

「ところで、５時間目は安西先生に怒られっぱなしだったな！やべ、怒られてる時のお前の顔思い出したら…やば、笑いが止まらなく…わはははは」　べちん　「いてっ！たたくことねぇだろ！」

「けんかするほど仲がいいっていうだろ？大親友なら、ぶん殴っても仲がいいんじゃない？」

「ちょ、まて、お前、」　「冗談だって」

ノリが軽いが、根はいいやつだ。だから、俺はこいつが好きだ。まあ大親友ってほど好きでもないが。

「安藤ー、お前、５時間目に安西先生が話してたこと覚えてるか？」

「ん？なんか言ってたのか？」

「おっ、気になるのか！情報料５００円」

「じゃあいいや」

「なっ…なら、特別に無料で話してやる！今回だけだからな！」

ほら、根はいいやつだ。

「うちのクラスに転校生が来るらしい」

「おー、そうなんだ。男？女？」

「女の子らしいぜーー！かわいい子かなぁ！」

「はいはい」

「お前の隣、席あいてるだろ？その子がくるかもしれないぜ？」

「ぁー、気まずくなんないように頑張りまーす」

「なんだよ、張り合いねーな。あ、家だ。また明日ー！」
「じゃあなー、あ、ちょっと待て、その転校生が来るのはいつだー？」
「明日だ！楽しみだろー！じゃあな！」
「え、ちょっと待て、明日？！」

バタン。田沼の家のドアが閉じた。

初めて、授業中寝てて後悔した。心の準備が出来てないー……

白いＵＦＯ（後書き）

こんな感じで大丈夫なんでしょうか（汗）

追記　書き方のスタイルは随時変わっていく可能性があります。

転校生

田沼の言葉が頭の中をぐるぐる回っている。

「うちのクラスに転校生が来るらしい」

「女の子らしいぜーー！かわいい子かなぁ！」

「お前の隣、席あいてるだろ？その子がくるかもしれないぜ？」

そのうえ、転校生がくるのは「明日だ！楽しみだろー！じゃあな！」だ。

その話をしたのは、昨日の「明日」、つまり今日だ。今日、そいつが来る。

「はあぁぁ…。」

深いため息をつきながら登校していると、

バシッ

「いてっ！」

「わはははは！昨日のしかえしだ！昨日は安西先生の話しただけでたたいてきただろ？だから今日は俺の番だ！！」

「ぁのー、どちらさまですか？」

「な…まさか、大親友であるこの俺を忘れてしまったのか！？忘れてしまったというのか？！？！？！たのむ、うそだといってくれぇぇぇ」

「冗談だ」

「あ…じょ、冗談か…」
「うん」
「よかったぁ。それで、今日はなんでそんなに暗い顔で歩いていたんだ？」
「ほっとけよーーーー…」
「あ！もしかして、転校生の件か？」
「ほっとけよーーーーーーーーーーーーー…」
「図星だな？」
「あぁ」
「とにかくっ！まずは自分から声をかけてみることっ！人間関係の基本だぞ」
「んーーー」
「話聞いてる？」
「んーーーーー」バシッ「いてっ！」
「ほら、もうガッコだぞ！気をひきしめてこーゼ！！」
「あぁ…」
「もう来てるかなあ？なあなあ？」
「何が？」
「転校生に決まってるじゃないかぁ！かわいい子かなぁ？」
「はいはい」
「あーー、もう我慢できない！先に教室行ってるからな！！」
「え…えっと…」
「うおおおー、転校生ーーー！！」
「ぁ…おいっ！」

だだだだだだ…

走っていってしまった…。

「まったく、転校生が入ってくんのはホームルームのときだろうが

…」

がらがらがらぽすっもくもく…
なんで俺のまわりに粉が舞ってるんだろう…
なんで扉と壁の間に黒板消しがはさまってたんだろう…
なんで頭の上に黒板消しが乗って…

「田沼ァァァ！！」
「ひっ」
「てめえの仕業か！？」
「ま、まて！落ち着け！な！？」
「で？どうなんだ？お前がやったのか？」
「許してくれよーーー、無邪気な子供のいたずらじゃないかーー」
「高3のヤツのどこが無邪気な子供なんだよ！来年はもう社会人じゃねえか！！」
「な、なにをすればゆるしてくれる？？」
「そうだな…よし！」
「？」
「一発殴らせろ」
「なっ…勘弁してくれ！！他の！他の選択肢は！？」
「じゃあ、クリーニング代」
「へ？」
「制服のクリーニング代よこせ」
「な…」
「まあ、後ででいいよ」
「あーあ…いたずらしなきゃよかった…」

まったく…いたずら坊主め。
荷物を手早くロッカーに入れて、教室を出る。廊下を抜け、階段を上り、重厚な扉を開けると…
屋上だ。広い、フェンスに囲まれた、なにもない屋上。
見上げれば、空と、雲と、太陽がひろがる、屋上。
屋上が、好きだ。自由で、開放的な感じとか、陽があたってぽかぽかしてるとことか。
フェンスにもたれかかって、空を見る。

「そうだ」

制服の上着を脱ぐ。やっぱり、黒板消しの粉が付いていた。
軽く払って、また着る。そして、またフェンスにもたれかかって、空を見る。
今日は雲がすくないな…。ずっと晴れだろうな…

キーンコーンカーンコーン

予鈴が鳴った。そろそろ教室に戻るか。

ホームルームが始まった。

「忘れてた…」

今日は、昨日の明日。転校生が来る日。

「おーい夕凪。入っていいぞ。」

入ってきた女子は、髪が長くて、落ち着いた感じだ。そして…
美人だ。

「夕凪玲です。よろしくお願いします。」
「じゃあ、夕凪は安藤の隣、そのあいてる席だ、そこに座るように。」
「はい」

田沼のいう通り、俺の隣に、転校生が座った。

「よろしく」
「よろしくお願いします」

それっきり、ホームルームの間は何も話さなかった。

「なあーー、せっかく隣になったんだから、もっと話さないとだめだぞ？」
「なんか緊張しっぱなしだったから、ちょっと外の空気すってくるわ。」
「なんだよーー。あ、玲ちゃん？俺田沼っていうんだけどさ！これからよろしく！」
「あ、こちらこそよろしくお願いします」

そんな会話を聞き流しながら、屋上に向かう。
フェンスにもたれて、空を眺める。

「ふう。」

転校生でどうなることかと思ったが、どうやら大丈夫そうだ。

がちゃ

「ん？」

「あ…」

なんで…ここに…

転校生が、くるんだ？

転校生（後書き）

長くなりました、すみません。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7826r/

clone

2011年10月8日22時43分発行